

# 恩方地区 青少年対策 青少対だより

青少年対策  
恩方地区委員会  
発行  
令和6年3月15日



2024

2月17日に青少年対主催の子育て講演会を行いました。

今年は八王子市総括担当スクールソーシャルワーカーの谷川由起子先生をお招きし、八王子市の子供たちの実情を実体験をもとに、説明していただきました。

最近では心が傷ついた子供が増加して、いじめや不登校、リストカット、過量服薬、集団不適應など様々な問題があります。

- スクールソーシャルワーカー（以降SSW）とは、子どもたちが抱える問題を家庭や学校、友人、地域社会など、児童・生徒を取り巻く環境への働きかけによって問題の解決を目指しています。八王子市のSSWは
- ・子どもへの福祉的支援を学校を基盤におこなう。
  - ・「教育」の前提となる「安心・安全に生活・登校・学習する」ことが何らかの事情によって難しい子供について学校と協力して対応する。
  - ・課題や問題を「子どもと環境の不適合」ととらえる。
  - ・学校における「こまりごと」に、学校からの依頼で対応する。
  - ・子どもや保護者だけではなく、学校もクライアントである。
- 同じような位置づけにスクールカウンセラーがあります。スクールカウンセラーは、心の専門家として主に児童・生徒の心の問題を解決するために配置されています。主に学校内で問題の解決を目指しています。
- それぞれ独立して問題を解決するのではなくSSWとスクールカウンセラーの特徴を生かして問題を解決できるよう連携することが出来ます。

講演の中でリストカットや過量服薬（OD：オーバードーズ）の説明をうけました。リストカットやODは自分が生きるために自分を傷つけるという矛盾しています。子どもたちからのぎりぎりのサインということを学びました。

代替え行動を探す、ストレスの元に対処する。

「苦しいね」「よくがんばってきたね」「一緒に考えよう」などの声掛けが効果的です。



SSWと連絡を取りたい場合、各校の先生に御依頼してください。



昨年5月にコロナが5類になり、学校や地域の活動もほぼ元に戻りました。3年以上の間、マスクは必須のものとなり、人が集うものは大きく制限される日々が続きました。そんな不自由な生活から解放された今年度は青少対も以前のような活動に戻ることができました。参加してくれた子どもたちや地域の方々の笑顔を見ると本当に良かったと思いました。来年度も引き続きよろしくお願ひします。

青少対総務 k

## 参加者からの感想

- ・親としての声掛けまた学校の子どもに対する声掛けについて考えさせられました。
- ・チームが最近の子どもたちについていうもので興味深く聞かせていただきました。それほどまでに不登校という状態にあるお子さんが増えているのだと感じました。特に回復へのプロセスなんかは、悪気なく保護者同士で声をかけすることもあると思うので、全保護者対象にもお話を聞けたらいいなと思いました。
- ・SSWというお仕事がよくわかりました。学校以外の機関の活用も大切だと思いました。谷川先生ありがとうございました。
- ・改めて不登校について考えることができました。
- ・不登校の見方の幅が改めて広がりました。多方面と連携して取り組んでいきたいと思ひます。
- ・SSWについて知ることができました。「相手の気持ちを考えて」というだけではだめだとわかりました。不登校や子どもへの困りごとは、計り知れないです。今までの研究などで解決の仕方を考えられて素晴らしいと思ひました。
- ・SSWの存在をはじめて知りましたが、学校の先生方だけではでない外部の専門家がサポートできるということに安心を感じました。

**12月3日(日)**  
小田野中央公園

# 地域ふれあいスポーツ大会

青空の下  
にぎやかな歓声

好天のもと、4年ぶりに小田野中央公園で開催されました。

久しぶりの開催となりましたが、ゲームを楽しんだあとは、すいとん入り豚汁とまちづくりの会から提供されたウインナーがふるまわれ、笑顔があふれる一日となりました。



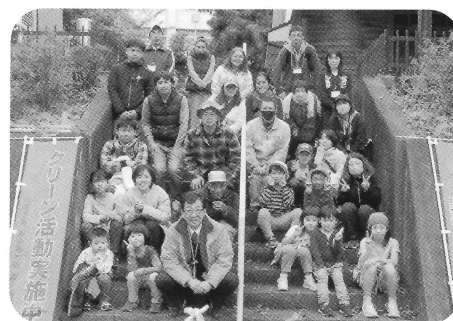
参加者  
約 **200** 名



## 年3回 クリーン活動

各校の周辺や通学路を、児童や生徒、保護者、先生方および地域の方々  
と年3回ゴミ拾いをしています。

|     | 第一回   | 第二回    | 第三回   |
|-----|-------|--------|-------|
| 恩一小 | 7月1日  | 11月18日 | 3月2日  |
| 恩二小 | 6月24日 | 11月11日 | 3月9日  |
| 元木小 | 中止    | 11月25日 | 3月17日 |
| 恩方中 | 7月20日 | 中止     | 3月22日 |



11月12日に各校PTAの皆さんと恩方地区にある二つのスーパーマーケットの前で健全育成キャンペーンを行いました。

## 11/12 健全育成 キャンペーン

## 子どもたちから 健全育成標語

各校代表作品

### ◆ 恩方第一小学校

ともだちの いえにいったら

こんにちわ (一年)

あいさつすると 自分もあいて

も いい気持ち (二年)

みんながね 楽しいクラス

つくるんだ (三年)

感じてね 相手の心

見えるから (四年)

心はね 一つしかない

たからもの (五年)

「わはははは」 みんなが笑う

未来がいい (六年)

### ◆ 恩方第二小学校

あそぼうと こえをかけよう

ともだちに (一年)

たすけあい みんなにここにこ

しあわせだ (二年)

ゆめあれば そこにむかって

がんばるよ (三年)

おもいやり 相手のことを

考えて (四年)

友達へ いじめじゃなくて

思いやり (五年)

友達よ 一人でなやむな

ぼくがいる (六年)





翌日はあいさつ運動の一環として風船の配布と健全育成標語の入賞者の表彰式を行いました。

が楽しい時間を過ごしました。

恩方市民センター祭りの一日目は児童館主催の子どもシティに共催として参加しました。恩方中学、聖パウロ高校、近隣の大学生がボランティアとして参加してくださり、大勢の子どもたちが楽しい時間を過ごしました。

## 子どもシティ

### 恩方市民センター祭り

同時開催 10月28・29日

提供しています。囲碁クラブと将棋クラブの方々には毎回、「ゲームの先生」としてご協力いただいています。

## あそびの広場

8月6日(土)  
2月3日(土)

青少対では毎年8月と2月に「恩方遊びの広場」を開催しています。囲碁、将棋、どうぶつ将棋、オセロゲーム等のボードゲームを通して子どもたちと地域の人たちとの交流の場を



## 夏季パトロール



7月21日、28日、8月11日、16日、24日、31日に育成指導員を中心に青少対、各校の先生方とPTA、駐在さんおよび地域防犯の方々と夜間パトロールを実施しました。



令和6年度 恩方地区青少対健全育成標語

## 見つけよう あなたと私の よい所

### ♥ 元木小学校

おはよう！ いわれたら

みんないいきもち (二年)

いただきます！ かんしゃの心

大事だよ (二年)

助け合い！ つなげていこう

永遠に (三年)

いつもはね 言えなかったけど

ありがとう (四年)

思いやり！ それが一つの

笑顔の種 (五年)

「ゆずり合い」 これで世界が

回ってる (六年)

### ◆ 恩方中学校

ありがとう！ ごめんなさいより

あたたかい (二年)

伝えよう！ 感謝の言葉

直接ね (二年)

見つけよう！ あなたと私の

よい所 (三年)



# テーマ「子どもの成長を感じたとき」

## 四校の副校長にお聞きしました



恩方中学校  
副校長  
渡邊 和彦

「日常的に生徒に接していて「ああ、成長したな。」と感じることは頻繁にはありません。

毎日顔を合わせる中で気づくというより一定の時間を置いた中で思うことが多々あります。最もそれを強く感じるのは卒業後です。中学を卒業して5年後に成人式があります。ありがたいことに、式を終えた後の祝いの会に中学校時代の恩師ということで招かれたことが数回ありますが、毎回思うのは手を焼いた生徒ほど感謝の念を多く述べてくれるということです。あれほど反抗して言うことを聞かず、たくさん叱ったり、時には励ましながらかつて活動したり、時間をかけた（かけざるを得なかった）生徒ほど大人になってからきちんとした態度で「本当にお世話になりました。」と挨拶に来てくれるのです。そんな時教師になつてよかったなと切に思います。教育というのは一朝一夕に結果が出るものではなく、日々一生懸命生徒に向き合うことで、いつか身を結ぶ。それを信じて毎日真摯に生徒たちと向き合っていく、というのが本質だと思うのです。言ってみれば我々教師は「種をまく」のが仕事。小さいときは大人の手を借りてやっていくことも、社会に出れば自立しなければなりません。自分の力で強く生きていくことができるように手助けするのが教師。その地盤づくりが義務教育の9年間だと思います。



恩方第一小学校  
副校長  
武田 修宜

「子どもの成長を感じたとき」時間軸で思い返してみます。45分の授業の中で、最初問題に取り組むことさえも二の足を踏んでいた子が、友達との学び合いで「わかった」と自分から問題に向き合ってきたとき。1年間の中で、友達とのトラブルで怒りのコントロールをうまくできない子が、トラブルがあっても怒りの時間が短くなったとき。6年間の中で、周りのコミュニケーションがうまく取れなかった子が、6年生になり下学年の子に視線を合わせ、優しく手を差し伸べ声をかけているとき。そんなとき、子ども達の心の成長を感じます。

子ども達の体は目に見えて成長してきますが、心は自然にはなかなか育ちません。努力をしたり、挑戦をしたり、失敗を乗り越えたり、怒りを我慢したり、相手の考えを受け入れたり、こうした様々な経験をしていくことで心は成長していくのではないかと思います。そうした心の成長のきっかけをつくること、心の成長の場面で即時価値付けすることを意識し、これからの心の成長につながる子ども達の経験を見守っていきたいと思っています。



恩方第二小学校  
副校長  
松本 尚子

何気ない日常の中で、ふと見せる子どもたちの姿から日々成長を感じます。習ったひらがなを使って文章を書いたり本を読んだりできるようになった1年生。九九の暗唱テストで何度もチャレンジして合格点をもった2年生。校外学習でお世話になった方に自分からあいさつをしていた3年生。飯盒炊爨で下級生に指示を出し、準備から後片付けまで手際よく作業を進めていた4年生。高学年としての意識がめばえ、自分の意見や考えを論理的に考えられるようになった5年生。下級生の見本になって行動するなど、様々な場面です計画を立てて実行に移していた6年生。時にうまくいかなかったり、練習しても身を結ばなかったり失敗もあります。が、それを乗り越えた時の達成感や人だけが味わうことができるものです。こうした積み重ねが成長には必要だと思います。

先日、縦割り班掃除の時、上級生が下級生に掃除の仕方を丁寧に教えていました。上級生からは下級生の面倒をみる責任感と誇りを、下級生からは上級生を頼りに慕っている思いが感じられました。子ども同士が教え合い、言葉だけで伝わらない機微に触れ、新たな学びを得て成長していると感じるのはとても大切です。子どものそばで成長が見られることをとてもうれしく思います。



元木小学校  
副校長  
河野 佳子

最近の、子どもの成長を感じた出来事は次の二つです。

一つは、人から、嫌なことを言われて、悲しい思いをしている子どもがいました。支えてあげてほしいと思い、周りの子どもたちに、「気付いたら、助けてあげてくれると嬉しいな。」と話しました。すぐに、「気付いてあげられなくてごめんね。もう大丈夫だよ」と、温かく励ましてくれました。相手に寄り添う優しい言葉に、私は、胸が熱くなりました。

もう一つは、授業中大きな声を出すなど、ルールを守れていなかったときです。正しいことができるクラスになることを願って、みんなの力を貸してほしいと話しました。友達同士注意し合うと、かえってうるさくなるなど、難しい面もありますが、みんなの力で徐々に良くなればと考えていました。その後、様子を見てみると、「みんな静かにして」「みんな机の上片付けて」の声が上がりました。「○○やめて」と言うより、ずっとやる気の起こる素晴らしい声掛けで、みんなの行動がとても良くなりました。先生に注意されたからではなく、自分たちで声を掛け合っているようになる。カッコ良いなと思いました。

子どもたちが大きく成長していることに気付かされ、嬉しくなる瞬間でした。